



## 一心響音(いっしんきょうおん) —響き合いながら育った6年生—

校長 伊藤 栄司

春の気配が少しずつ感じられるようになり、子どもたちの笑顔にも卒業を前にした頼もしさが見えてくる季節となりました。3月は授業日数が17日しかないため、あっという間に卒業式や修了式を迎えることになりそうです。タイトルの一心響音は本校自慢のマーチングバンドの合言葉です。「心を一つに音を響かせよう」と楽器をもつ一人一人が目標にして頑張っていました。

### マーチングバンドとともに

今年の6年生は、まさに「一心響音」がぴったりの学年でした。マーチングバンドに情熱を注ぎ、毎日の積み重ねを大切にしてきた姿は、後輩たちへのよきお手本になっています。また「社会を明るくする運動パレード」や「三崎神社まつり」「すずらんまつり」など、地域の行事にも積極的に参加し、どの場面でも堂々とした演奏を披露してくれました。上手な演奏の背景には、たくさんの練習があり、毎週、火・木・金曜日に行われている朝練習にも熱心に参加し腕を磨いてくれました。熱心に練習に参加する様子は、歴代の6年生の中でも1番であると音楽の主任教諭が話すほどです。

### 短期間で仕上げた練習

6年生の頑張りや、昨年度の創立30周年記念式典への参加が決まった時から始まりました。5年生になったばかりで楽器も初めて手にする児童が多い中、わずか3か月で見事な演奏を創りあげてくれました。心強い当時の6年生が助けてくれた面もありますが、努力と集中力は本当に見事でした。また、仲間と音を合わせようと何度も練習を重ねる姿には、強い意志と責任感が宿っていました。大勢のお客様が見守る中、見事な演奏を披露してくれた姿が強く印象に残っています。

### 伝統を引き継ぐ

3月4日に下級生へとバトンを渡す引継式が行われます。自分たちが大切にしてきたマーチングの心を丁寧な言葉と態度でしっかりと次の学年に伝える大切な式です。私は、この式を見るのが大好きです。

今までチームを引っ張ってきたメジャードラム(指揮者)が全校児童の前で、最後の指揮を見せます。上手く演奏できた時の喜びや練習の苦労、これで最後の一振りになるとの覚悟など、真剣な表情からは様々な気持ちが読み取れます。所作には無駄がなく、今までの成果を最後の指揮に込めた後、指揮杖を次の学年に渡します。

また、思いの詰まったメジャーを受け取る児童も真剣です。指揮杖を受け取ると同時に演奏の技術、多くの先輩方が大切にしてきたマーチングを大切にすることを受け継ぎます。同時に、「続けてください。」「もっとよいマーチングになるように頑張ってください。」「と優しさや願いがこもった言葉を受け取ります。そして、5年生にとっては、長く続くお茶の水小学校の伝統を受け継ぐ最初の指揮を行います。

きっと、今年の引継式も同様に素晴らしい式になると思います。この一年、6年生の奏でた音は、学校だけでなく、地域の皆様の心にも温かく響きました。音楽は、努力の積み重ねが形として現れます。6年生が見せてくれたひたむきさ、仲間と力を合わせる姿は、子どもたちの未来を照らす大切な力となっていくはずで。引継式は、保護者の方も参観できますので是非、ご来校ください。

### 1年間の結びに

地域の皆様に支えられ、保護者の皆様に見守られながら6年生は大きく育ってきました。これからもきっと周りの人の心に優しい響きを届ける存在になることでしょう。6年生がこの学校で育んだ「一心」が、これからの未来でさらに広く、美しい「響音」となっていくことを願っています。